

昭和33年洪水の概要と近年の出水

昭和33年9月洪水の概要

洪水当時の資料（新聞記事等）

洪水当時の写真

近年の出水

高瀬川の治水対策

高瀬川流域は、水害に襲われた歴史がある。

昭和33年9月の大水害から50年。

またいつやってくるかもしれない洪水被害に備え、わたしたちに今できることなどについて考えてみたいと思います・・・

平成20年10月4日 防災座談会in小川原湖

高瀬川河川事務所長

昭和33年9月洪水の概要

今から50年前の昭和33年9月、台風22号により高瀬川流域は未曾有の大洪水に見舞われ、人命・財産に大きな爪痕を残しました。

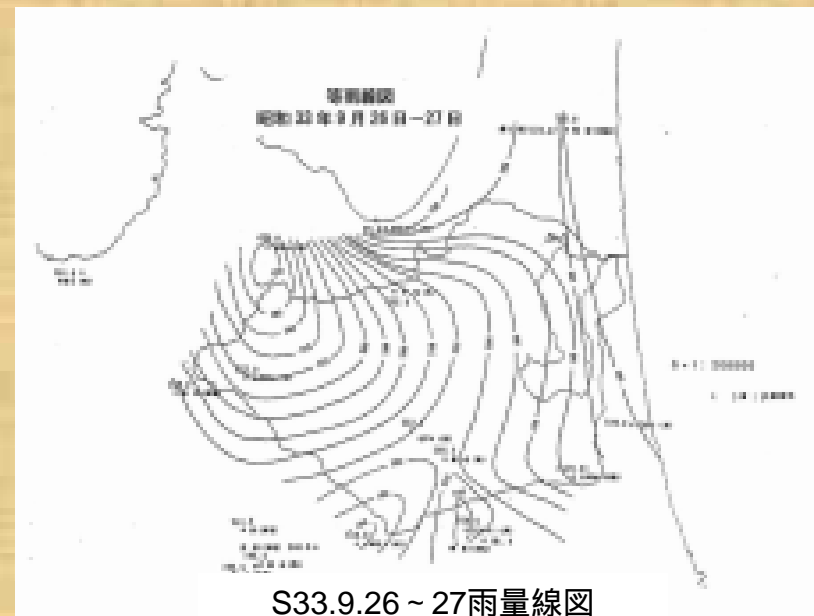
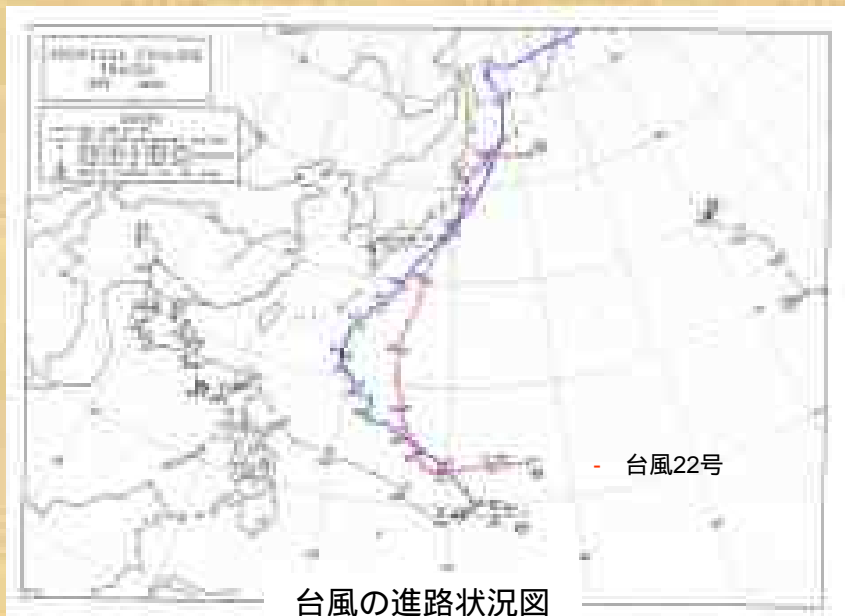
【気象状況】

昭和33年9月26日から27日にかけて、台風22号が関東地方を縦断し三陸沖に抜けたため、八甲田山東側と下北地方を中心に豪雨をもたらしました。

各地の雨量観測所は、上北鉾山で323mm、三本木251mm、千曳249mmを記録。

小川原湖の水位は、既往最高水位となるT.P.+2.79mまで上昇しました。

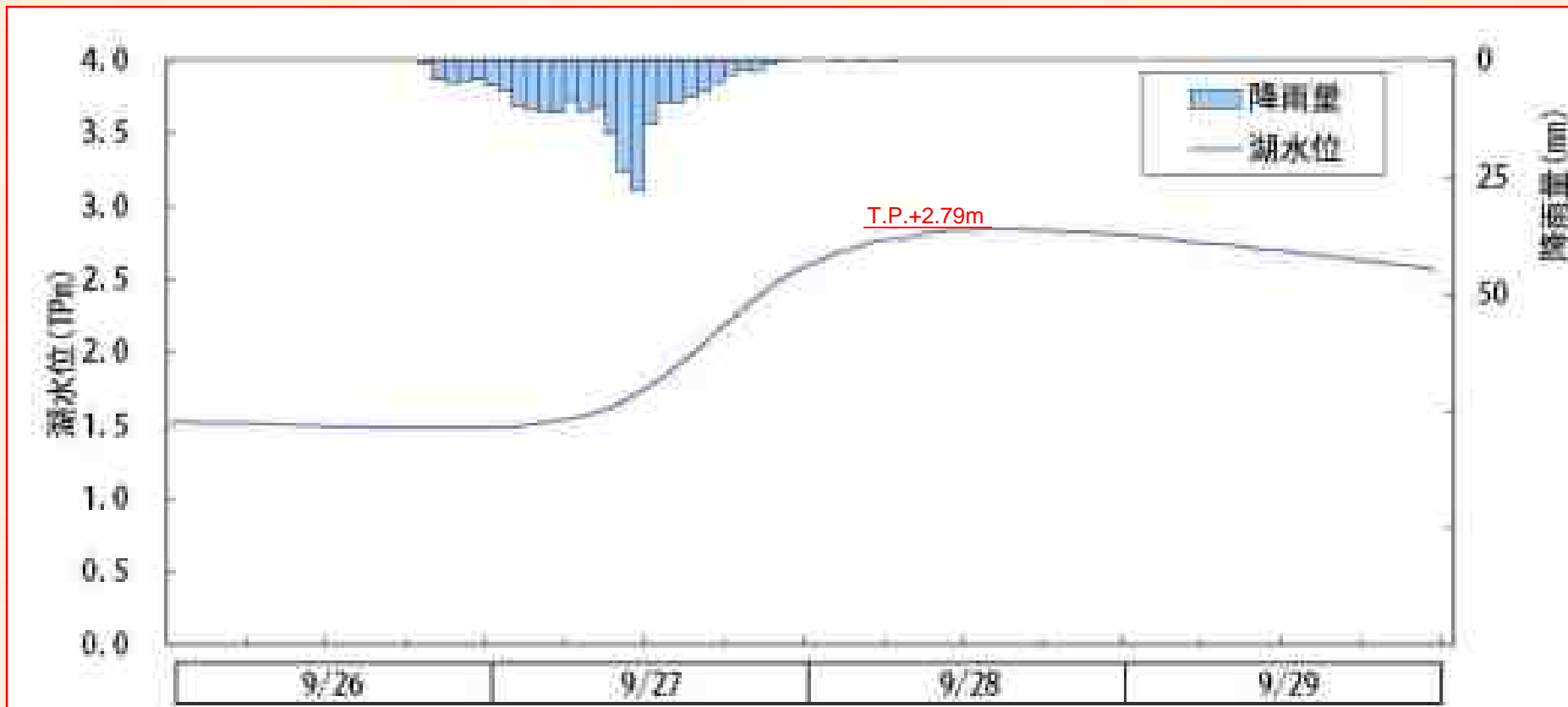
小川原湖の平常水位は、概ねT.P.+0.5m。「T.P.」とは、東京湾中等潮位を表し水位の基準となるものです。



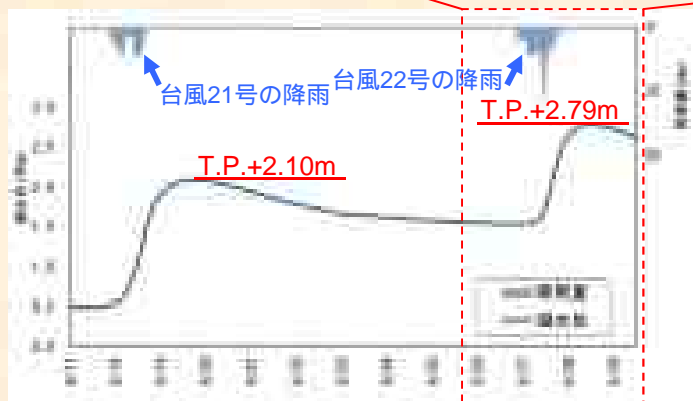


【 昭和33年9月洪水の浸水範囲 】

浸水範囲面積は3,150ha(=31.5km²)となり、小川原湖面積(約63km²)約1.5倍になりました。



【 昭和33年9月洪水の時間・水位・雨量グラフ 】



このように、昭和33年9月17日～18日に台風21号の洪水で小川原湖の水位は、9月26日時点でT.P.+1.5mと高い状態となっていました。そこへ台風22号が来襲し、既往最高T.P.+2.79mまで上昇しました。

当該グラフは当時の記録を元に作成したものです。

【被害状況】

十和田市、三沢市、七戸町、上北町（現 東北町） 他
死者3人、負傷者17人、住家損壊流出151戸、床上床下浸水2,801戸、
浸水範囲面積3,150ha と甚大な被害をもたらしました。



浸水した家屋、奥の小屋が損壊している。



七戸町 川原町 七戸川氾濫の様子

洪水当時の資料(新聞記事)



昭和33年9月26日東奥日報 夕刊



昭和33年9月27日東奥日報 朝刊

「この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。」



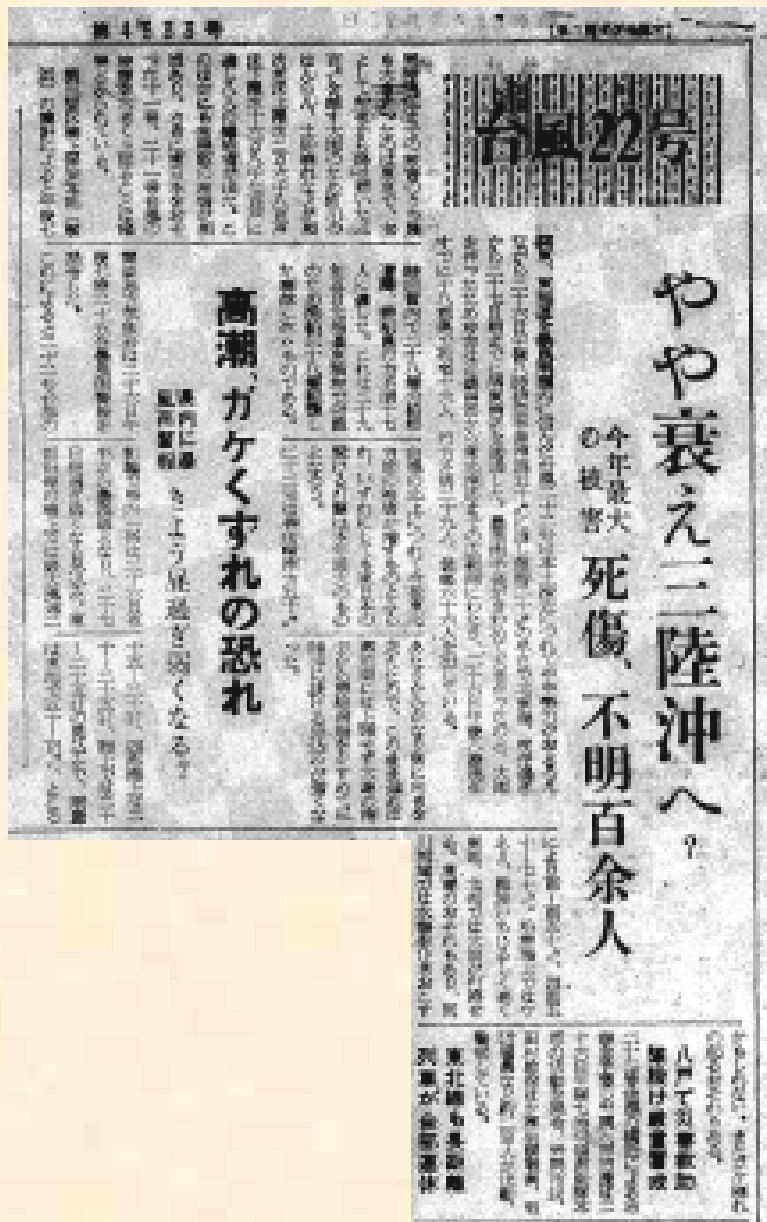
昭和33年9月27日東奥日報 夕刊

「この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。」



昭和33年10月3日東奥日報 朝刊

「この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。」



昭和33年9月27日デーリー東北



昭和33年10月2日デーリー東北

「この画像は、当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。」

沿川市町村の記録

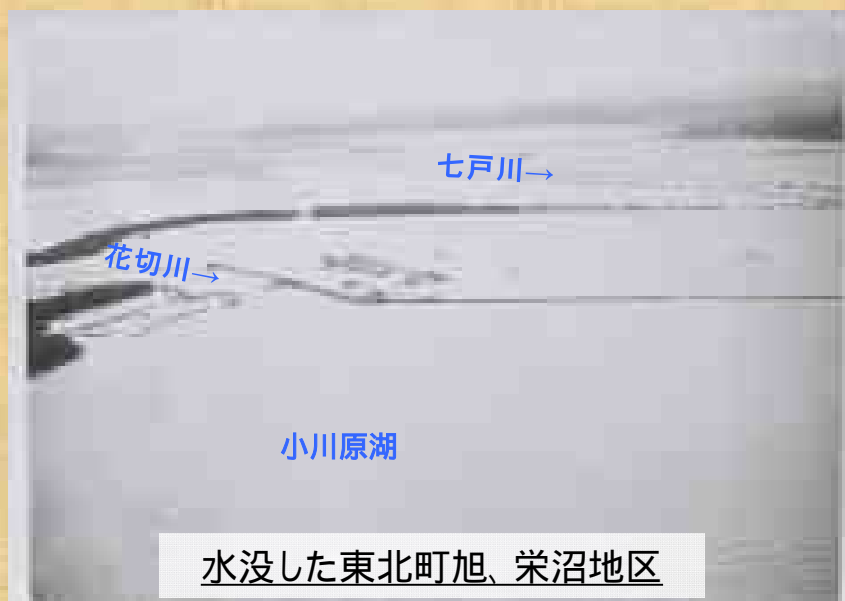
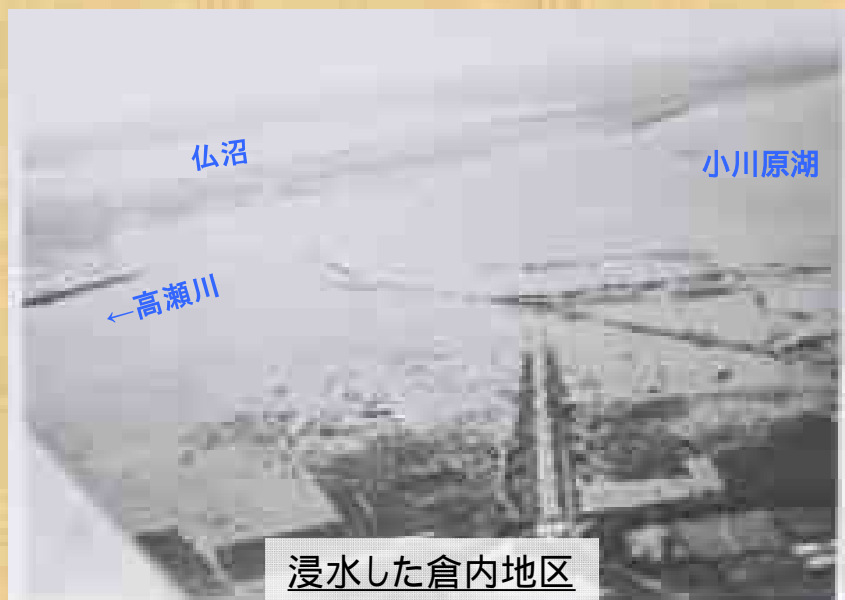
上北町（現 東北町）

「(前略)9月26日夜半から来襲の台風22号は27日にかけて30メートルの強風と200ミリを越す豪雨のため、水は一齐に小川原湖めがけて流れ込み、湖面は一挙に2メートル50センチ近くも増水したため、小川原湖に注ぐ各河川は一齐はんらんした。27日午前6時には小川原湖畔防水堤の一角が崩れて、上北町に逆流し始めた。さらに、午前10時には湖岸ならびに花切川防水堤は一齐に破れ、手の施しようがなく、栄沼部落は濁流の中で水没の危険にさらされ、加えて命の綱と頼む七戸川上流の堤防も数カ所で欠壊、腹背より水攻めにされ、完全に濁流の死の町と化したのである。また、砂土路川堤防も数カ所が欠壊、上北町800町歩の水田が一面の湖水となった。台風の被害は、上北町だけで2億1千万円に上り、小川原湖沿岸市町村の被害額をあわせると5億円にも上った。9月29日には9月定例町議会が水害対策協議会にかわり、対策本部を設けるとともに、次のような緊急対策を検討した。被害の徹底調査 避難者の炊出し給食給水対策 道路・堤防・橋梁の応急対策 消毒井戸水検査等の防疫対策 小川原湖の減水対策 排水機場の早急運転対策

このような大被害は、当然小川原湖開港運動にも影響を与え、同盟会も小川原湖沿岸地区水害対策協議会と名称を改め、水害対策一本にしぼり、高瀬川放水路着工への運動を展開したのである。運動開始から着工まで6年の歳月が経たものの、38年3月には放水路着工へ踏み切ることができた。(後略)」

上北町史 下巻（第5章小川原湖の開発と漁業 三 高瀬川放水路事業）より

洪水当時の写真・資料など





東北町旭、栄沼地区

・家屋が浸水し、ボートが人の移動手段となっている。



東北町旭、栄沼地区

・住民が避難場所から様子を見に来たところ。



東北町旭、栄沼地区

・家屋が浸水し、住人が屋根の上にいるところ。



東北町砂土路地区

・水田が浸水し、人が確認しているところ。



東北町砂土路地区

・東北本線の高架橋下部工が浸水している。



東北町砂土路地区

・東北本線の高架橋鋼桁で流木等がせき止められているようす。

災害後これまでの治水対策

流入河川の改修(県)

湖岸堤の建設(国)

- 旭堤防
- 栄沼堤防
- 入沼堤防
- 砂土路堤防
- 中志堤防
- 倉内堤防
- 鶴ヶ崎堤防

排水機場の整備

- 北谷地排水機場(農)
- 南谷地排水機場(農)

- 津花川排水機場(国)
- 流川排水機場(国)

導流堤の建設(国)
S53 ~ S54

高瀬川放水路
の開削(県)
S37 ~ S52



高瀬川浸水想定区域図



被害想定が特に大きい東北町旭、栄沼地区

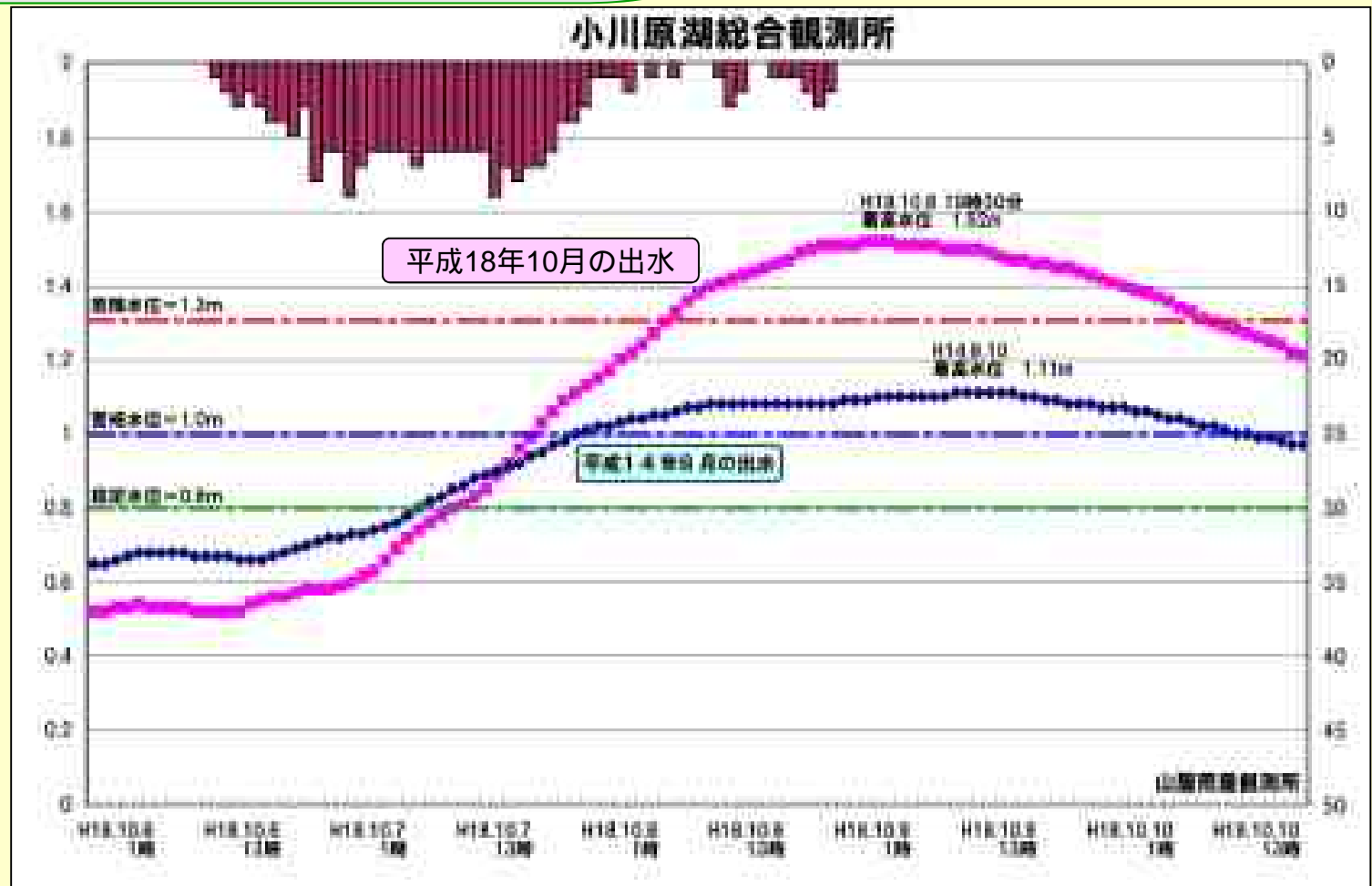
高瀬川水系高瀬川 浸水想定区域図



近年の出水(平成18年10月)

出水概要

- ・小川原湖の水位
TP + 1.52m
(過去2番目)
- ・雨量183mm



発達した低気圧による平成18年10月6日からの降雨で、高瀬川では危険水位(TP+1.30m)を超える出水となった。

雨量は、流域平均総雨量で183mmとなり6日昼頃から9日夕方にかけて流域全体に大雨が降った。

水位は、洪水予報・水防警報基準地点である小川原湖総合観測所で危険水位(TP+1.30m)を超え、10月8日19時30分最高水位(TP+1.52m)に達した出水となった。

近年の出水(平成18年10月)

三沢市頭無地先の道路被災状況

